

令和4年度 第3回 大東市環境審議会 会議録

- 日 時 令和5年2月16日（木）午後1時30分～3時00分
- 場 所 大東市立市民会館4階 大会議室
- 出席委員 花田会長、三ツ川副会長、玉置委員、北田委員、高橋委員、河村委員、
中原委員、木村委員、吉村委員、東野委員、花嶋委員、赤田委員、
田村委員、葛城委員
※委員名簿掲載順
- 欠席委員 濱崎委員
- 事務局 市民生活部長 木村 市民生活部総括次長 竹田
環境課 課長 吉原 課長補佐 上村、武内
上席主査 道木、戸田 主査 泉
- 傍聴者 無し
- 当日次第
 - 1 開会
 - 2 議事
 - 議事1：第2期大東市環境基本計画（令和3年度の実績報告）
 - 議事2：第4期大東市地球温暖化対策実行計画（令和3年度の実績報告）
 - 議事3：第5期大東市一般廃棄物処理基本計画（令和3年度の実績報告）
 - 議事4：その他
 - 3 閉会

○ 配布資料

1. 会議次第
2. 資料一覧
3. 委員名簿
4. 配席図
5. 【資料1】大東市環境審議会規則
6. 【資料2】第2期大東市環境基本計画 令和3年度の実績報告書
7. 【資料3】第4期大東市地球温暖化対策実行計画 令和3年度の実績報告書
8. 【資料4】第5期大東市一般廃棄物処理基本計画 令和3年度実績報告書

1 開会

2 議事

議事1：第2期大東市環境基本計画（令和3年度の実績報告）

<意見等>

事務局	【資料2】について説明。
委員	特に気になるのが「グリーン調達」のところ。特定調達品目であるのに適合する商品自体がないので記載できないというのでは本末転倒である。ぜひ方針を見直していただきたい。大阪府を始めとして大阪府はグリーン調達が全国的に高い地域であるので、その中の一つの自治体として大東市も調達率が上がると良いと思う。 「大東シニア総合大学」は、先日発表を見せてもらった。みなさん非常に一生懸命に勉強されており、上手に発表してくださった。練習の時から比べるとものすごく上手になっており、市の方もご協力くださったと思うので、ここで改めて感謝申し上げる。 一つお伺いしたいのが、「だいとうクリーンウォーク&環境フェア」だが、目標も掲げられているが今後どうするのか。
事務局	中間見直しの時点で目標を掲げさせていただいているが、コロナ禍が契機となり今年度このイベント自体のあり方の見直しとなった。「恩智川クリーン・リバープロジェクト」もあるので、そこにこれまでやってきていた「だいとうクリーンウォーク&環境フェア」の要素を盛り込んで、より効果的なイベントになるよう今後やっていきたいと考えている。

委員	「だいとうクリーンウォーク&環境フェア」はとても良い機会だったと思う。あり方を考えるということで、別のやり方になると環境にあまり関心がない方もできるという良い面がある一方で、環境に関心がある方が集まるところでもあったので、その機会を考えていただきたい。大東シニア総合大学でもあれだけすごく熱心な方ばかりで、大東市が実施している取り組みで他の自治体と違うと思うことは、こういう市民大学の卒業生がしっかり活躍されているということ。環境フェアで竹細工等楽しい工夫をされていたので、そういう場面の設定を是非考えていただきたいと思う。
委員	「みんなで創る『だいとうの環境』」に環境基準達成状況の大気の箇所がずっと75%である。4項目中3項目達成ということで、目標は100%となっているが、なかなか1項目が達成できていない。大東市単独で対応できるものかどうか。また、項目の内容はどのようなものか。
事務局	4項目の種類は、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、光化学オキシダント、PM2.5の微粒子状物質である。 1項目達成していないのが、光化学オキシダントというもので、一般的に光化学スモッグと言われているもので、大東市が特化して著しく高いという訳ではなく、大阪府内で夏場の暑い時期に警報まではいかないが注意報が毎年数回出ているのでその分である。
委員	大東市で環境基本計画を立てて、自分たちが努力して達成できる項目であれば良いが、自分たちが努力しても達成が難しいような項目なので、どういう観点から目標にしているのか疑問に思った。
委員	確かにそうである。土壌や水質は、その場所ということで努力すれば良くなるが、大気は範囲が広く難しい。
委員	ご意見の通り大気はなかなか難しい。大阪府で大気の話もしており、光化学オキシダントは特に大阪府だけでなく全国的にも課題になっている。ただ、我々ができることと言えば、事業者から揮発性のVOCを使わないとか、そういう心がけはできるので地域で取り組みをすればその地域は減る。それが広がれば府域、国全体に関わっていくので、そういう取り組みを進めていくことになると思う。
委員	無関係ではないが、努力が表れるのがなかなか難しい項目である。
委員	「エコで未来につなぐ『だいとうの環境』」のダンボールコンポストの教室の関係で、毎年参加者を増やすという目標を掲げているが、これはあくまでも市が主催する立場のもので、2回計画し実施されている。これで満足しては駄目で、各自治会の方で積極的にダンボールコンポストの教室をしてほしいという要望もあったと思うので、市とし

	での協力を何らかのかたちでやられるのか、そういった予定はないのか。
事務局	ダンボールコンポストは、市の主催とは別に出前講座のメニューの一つにも上がっており、市民の方から出前講座の依頼があれば講座ができる。
委員	今回大東シニア総合大学環境学部の学生の中にも非常に興味を持っておられてすぐにやってみたいという方もいらした。生ごみの処理の関係で、いろんな処理の仕方があると思うので、生ごみを減らすということに市民の皆さんが意識を向けてくださるきっかけになれば良いと思う。そういう取り組みが市民に広がっていくように市に対してはお願いしたい。
委員	出前講座はできるという回答だが、講座内容だけを出前ですだけで、今年度実際に出前講座をしてほしいという依頼に対して、材料等は出せないということだった。それでは何の意味もない。来年度以降は、市が材料等も用意して出前講座ができると解釈してよいのか。
事務局	市全体のシステムの中で出前講座という事業があり、材料や費用に関しては依頼される方にご負担いただいて、市は講師として出向き講座を行うという内容になっているので、出前講座としての部分での費用負担は依頼者にしていただかないといけないことになっている。市が主催する講座は年に 2 回実施しているが、これは市の事業として行っているの、材料は市が負担させてもらっている。
委員	市の主催回数を増やしていただきたいが、予算が関係すると思うので、来年度は難しいと思うが再来年度以降に市が主催して環境の取り組みを進めるような講座をなるべく増やしていくということも目標に入れても良いかもしれない。
委員	「地域力が支える『だいたいの環境』」のところで、アドプトプログラムの登録団体数があるが、登録されている団体とはどんな方か。また、登録団体数を増やすという目標に対して、どんな取り組みをしているか。
事務局	基本的にはいろんな主体の方がおられる。自治体、老人会、民間企業等、制限はかけていない。基本的に 5 人以上の団体であれば申請できるようになっている。 登録団体を増やすということには、アドプトというのは道路や公園や水路の美化活動等が主な活動内容になっており、こちらの方から積極的にアドプトを活用してもらうような取り組みはしていない。アドプト制度に申請いただきたいような、アドプトの役割や主旨等を積極

	的に発信しながら、申請いただければスムーズに協定を結ばせていただくようなかたちで取り組みを進めている。
委員	今、野崎で明星金属工業を主体として毎月 1 回清掃活動を行っている。そのような方も申請を行っているのか。
事務局	そちらの方は、協定を結んでいないと記憶しているが、協定を結ばせていただければ、市としてご協力できる。美化活動にかかる材料費や清掃用具等を最低限度ではあるがご提供できるので、必要であれば市民政策課までご相談いただければと思う。
委員	資料 2 について、和暦になっているが、その他の資料は西暦と和暦を併記されている。できれば西暦を入れてほしい。和暦だと遡るときに分かりにくい。

議事 2：第 4 期大東市地球温暖化対策実行計画（令和 3 年度の実績報告）

<意見等>

事務局	【資料 3】について説明。
委員	市役所の建替えが 2030 年までの間になかったか。もしあるとすれば、計画にどう入れていくのか。
事務局	市庁舎の建替えについては、基本構想がほぼ出来上がっていると聞いている。これから設計に入っていくということも聞いている。来年度頃から基本設計に入り、その後実施設計して実際の工事に入ると思う。今、国からも言われているように、公共施設は率先して建物の ZEB 化を目指していくように言われているので、庁舎の担当部署とも連携を取りながら ZEB に関してどれだけできるのか等の話し合いはしている。ただ、予算の関係もあるので、どこまでそれが反映できるか我々では計り知れない部分がある。事務事業編に加え、今回ゼロカーボンシティ宣言をして、区域施策編を策定する。そういった中で、国の補助制度の獲得を目指してやっていきたいと考えている。工事のタイミングと国の補助制度のタイミングもあると思うが、しっかり情報収集しながら、予算を確保できれば ZEB 化に向けて設計ができるのではないかと考えている。
委員	市の取り組みによってかなりの補助金が交付されるというのもあると思うので、その辺を検討することと、日程のための条件があると思うので、それを一つの軸として計画を考えていただきたいのが一つ。 予算の兼ね合いがあるという話があった。今は排出そのものに価格はないが、カーボンプライシングの流れは世界的である。イ

	ニシャルコストは高いかもしれないが、後々排出に価格がついてくることを考えると、現時点での投資は将来の利益を生むというふうと考えられるので、その辺も予算折衝の時にお伝えいただけたらと思う。今安いからといって排出する建物を建てると、後々お金を払わないといけなくなる時代がくると思うので、そこも考えて予算折衝していただけたらと思う。
委員	かなり削減が進んだということで、素晴らしいと思い見ていたが、実際の排出量と温室効果ガスの電力の係数みたいなものが、どこかに載っているのか。電力使用量の推移はあるが、温室効果ガスの係数を一緒に書くことによって、どれだけ大東市にバイオマス発電所のある意味があったのか、あるいは関西電力自体も 2013 年以降たくさんの原子力発電所をまた再稼働していて温室効果ガス係数を減らしているので、係数の推移も一緒にあると分かりやすいと思う。
事務局	19 ページをご覧くださいれば、電気事業者別の排出係数の推移というのは載せている。
委員	以前は関西電力のみだったので関西電力の係数を出すだけでよかったが、今はそうではない。大東市は市内にバイオマスがあり、これだけラッキーなんだと見せることも、今後いろんなところでのバイオマスを後押しすることにもなると思うし、大東市としての係数がどんな変化だったか、そしてそれはなぜかということをどこかに書いていただくと分かりやすい。
委員	グリーンパワー大東があるというお話だったが、市は事業として全てグリーンパワー大東から買っているのか。
事務局	全ての施設ではない。電力の契約というのが、施設を所管しているところが個別で契約されている。学校等は教育委員会が契約するし、ここの市民会館は市民会館を所管している課が契約をし、本庁舎であれば総務課が契約をするので、全部がグリーンパワー大東ではなく料金だけで考えるところもあったりするので、若干違うところも出ている。
委員	そうすると、全てがグリーンパワー大東になると、まだ下がるということが言えるのか。
事務局	もちろんグリーンパワー大東の温室効果ガスの排出係数が非常に低いので全てが切り替われば、もっと削減率は高くなると考えられる。
委員	非常に有効な手段だと思う。地産地消にもなる。
委員	まだ大東市に売る余力はあるか。

委員	電気の発電量から換算したときに、販売させていただく電気の量はまだ十分あり問題ないと思われる。先ほど話があったように、施設を管理されている方の考え方も当然あるし、電気の料金のところで安くというところも当然ある。大東市に限らず通常の社会の常だと思う。そこで、環境負荷の低減だったり、我々の電気が付加価値をついているものとして認識いただいてご理解いただいた場合は、価格ではないところで転換される方もいるが、予算もあるのでお金を優先される方も多い。
----	--

議事 3：第 5 期大東市一般廃棄物処理基本計画（令和 3 年度の実績報告）

<意見等>

事務局	【資料 4】について説明。
委員	全国各地で経済活動が収縮していて、ごみ総量も減っているというのが一般廃棄物についての現状かと思う。令和 3 年度を見てどうだというのは言えないと思う。この手の資料を作っていただく時に数字では分かりにくいので最終目標に向けてどういう風に変化があったのか、あるいは今回はコロナの事情があったので特殊な変化をしているというようなことがあると分かりやすいので、お手数ですが、最終目標年度に向かったのこれらの指標をグラフで表わしていただけると判断しやすいのではないかと思います。
委員	目標に向けてのグラフ化は大切で、どこまで減らしたらよいか、あるいは現状どこにあるかというところから対策を考えないといけないのでお願いしたい。
委員	リネットジャパンリサイクルは引き取り手数料等公表しているのか。
事務局	こちらのサイトでも検索して、いろんな品目から選ぶと料金がすぐに分かるようになっている。
委員	セカンドオピニオンではないが、協力店に問い合わせさせていただくことを勧められてはどうか。リネットジャパンリサイクルが入ってくると、市が勧めているというイメージになるとあまりよくないという指摘があったと思うので、そこら辺を配慮していただき、買い替える時には地元の収益にもなるので考えていただきたい。
委員	地元の電気屋さんはとても貴重だと思っており、高齢者の方の電球交換ができないという相談がある。地元の電気屋さんで電球を買って交換してもらうことができる。これだけではなく、地元の電気さんと市との連携をいろんな意味で模索していただけると助かる。

委員	まずは地元で回せるかどうかを考えた上で、地元の電気屋さんも高齢化して無理だというような状況であれば仕方がないので、策というような位置付けで入れてもいいのかなと思うが、市民に対してはリネットジャパンリサイクルが第一選択であるような印象を与えないようにしなければいけないのではないかと思います。更に、リネットジャパンリサイクルは家電リサイクル4品目だけではなく、小型家電の回収もやっているようだが、ちゃんとやっているかの確認が自治体として必要ではないかと思う。
事務局	町の電気屋さんを大切にするとところで、今回そういった考えを持ちながら11店舗回らせてもらって生の声を聞いた。3分の2ほどの店舗が高齢の方がやっておられて、家電の引き取りについてはかなり労力がかかり、保管スペース、引き取り場所まで取りに行くのに距離があったり時間が取られたり、手数料もかなり工面されているようで、儲けはないらしい。地域の繋がりを大切にしていこうということで続けられているが、ネットで購入したものを引き取ってほしいという依頼が増えており、繋がりというよりは引き取り依頼のみが増えている。一店舗あたりの依頼件数は増えている。実際には、御供田地域や西側は数店舗あるが東側があまりなく、御供田のお店の方が北条まで引き取りに行ったりしていることが結構あるようだ。生の声を聞くと、やりたいという方と、減らして欲しい、他にあるのなら案内してほしいという方が、半々ぐらいの割合であった。 小型家電の処理をリネットジャパンリサイクルがきちんとしているかというところでは、現在のところ市民からクレーム等の声は聞いたことがないが、市が協定しているので、今後、現場確認はしたいと考えている。小型家電の今の実績としては、1か月あたり50件ほどの申し込みがあるようである。品目としては、パソコン、携帯電話等で、月平均して50件というところである。
委員	産業廃棄物のように、家電の廃棄にはマニフェストはないのか。制度的な動きはないのか。渡してしまえば終わりというよりも制度的にもあればよいと思うのだが、動きがあれば教えてほしい。
委員	小型家電自体は何もなかったと思う。ただ、具体例でいうと市役所の中に小型家電の集積所がある。収集時に何月何日にどれだけの量のものを出したというのをデータ化しておいて、ずっと蓄積しておけばマニフェストになる。制度的にはないが、運用的にやれないことはないと思う。そういうかたちでやれば処理されたことが分かり安心ではある。

事務局	小型家電のボックス回収は、引き取りの都度、回収量とマニフェストの控えを大栄環境からいただいている。宅配回収は、リネットジャパンリサイクルから毎月、申込件数と回収量の報告をいただいている。
委員	大きな品目を最終的にどうするかということだが、買い替えをするのか、廃棄だけするのかで、まず大きく分かれる。町の電気屋さんで買うのか、家電量販店で買うのか、通信販売で買うのか。最近の通信販売は引き取りもしてくれ、全て込みの価格である。大きな工場ですと、廃棄だけでなくリサイクルに回ってくるのではないかと思う。国がもっとしっかり取り組んでくれるのが一番よいが、まだ進んでいない。買い替えをしないものについてどうするかのところをリネットジャパンリサイクルが専門にしているのであれば、市として紹介するのはよいと思う。ただし、リネットジャパンリサイクルも冷蔵庫や洗濯機等、どういった工場で廃棄処分しているのか、市として確認しているのであれば自信を持って市民さんを誘導できるのではないかと思う。
委員	今のお話だが、別紙 3-2 リネットジャパンリサイクルについての資料の 11 ページに、家電 4 品目については佐川急便が運ぶだけで、通常の家電リサイクルのルートに乗ってくる。小型家電についてはリネットジャパンリサイクルがやっているようだが、家電 4 品目については通常の家電リサイクルに乗るんだと思う。家電リサイクル自体も今後考えないといけないのは、そもそも日本の家電メーカーでみんなが家電を買っていた時代の話で、いかに分解しやすい製品にすることが目的であった。その後、日本の家電メーカーがどんどん海外に買われたりとか、作らなくなったりとかしていったので、本来のリサイクル、リユースしやすい設計をするというようなところが、なかなか効かなくなってきたりして、市民への負担が大きくなってしまったのかな。それは大きな問題ではないのかなと思う。以前はまだ上り調子のときだったので大抵の人が買い替えをする、買い替えの時に引き取ってもらうという仕組みだったが、今はもう単純に世帯が減って、そこに残ったものをどうするかというような時代になってしまったので、日本全体の仕組みとして家電リサイクルがうまくいかないような時代になってしまったのではないかと思う。
委員	リネットジャパンリサイクルの紹介の仕方を考えていただいて、決して市が推薦している訳ではないと、第一優先は買い替えによって町の電気屋さんをお願いすること、そうすると町の電気屋さんで買ってくださる方が増える。買い替えではない方で、家の中から運び出して

	くれるということで、それが楽でよいと思う方がリネットジャパンリサイクルにするという辺りのことを、市民の方に伝わるようにしていただけたらと思う。
--	---

議事４：その他

<意見等>

事務局	粗大ごみの有料化についての進捗状況を報告。
委員	デザインはもう完全に決まっているのか。大東市側からすればこれは証紙なのかもしれないが、市民側からすれば粗大ごみ処理券なので、文字の大きさは、粗大ごみ処理券の方が大東市証紙より大きく印字する方が理解しやすいのではないかと思う。
事務局	確かに市民の方々にとっては処理券とインプットされやすいと思うが、他市等々調べていると証紙としてやっているところは証紙であるということがまずメインであって、粗大ごみ処理券というのはそれを分かりやすくするための表示という位置付けになっているところである。 市民の方々に、できるだけ分かりやすく認識していただくという視点は非常に大事な視点なので、この小さいフォントでは申し訳ないが、粗大ごみ処理券と市民の方々にご認識いただけたらと思う。そのために通称名として併記させていただいた。
委員	粗大ごみ処理券となっているところをもう少し大きくすることは今からでは難しいか。
事務局	現在業者に発注をしているので微調整が可能かどうか確認をして、可能であれば対応したい。
委員	今後の課題ということで、次に作るときにはフォントを大きくしていただきたい。
委員	「おおさか環境科」という教科書を作るのに携わっているのだが、グラフや地図の配色をすごく考えている。色弱の方が色を識別しやすいかという視点も必要であり、赤と緑は見にくいというのを聞いたことがある。この粗大ごみ処理券は薄いピンクと緑なので大丈夫だと思うが、今後の課題として色も考えていただけたらと思う。

３ 閉会

以上